

### 第3回 小平市公共施設マネジメント推進委員会（会議要旨）

日 時 令和3年12月15日 午前10時00分～正午

場 所 WEB 会議（ZOOM）

出席者 推進委員 7人

出席課 7人（行政経営担当部長、公共施設マネジメント課長、公共施設マネジメント課長補佐2人、公共施設マネジメント課担当係長2人、教育総務課長補佐）

傍聴者 1人

## 1 開会

## 2 小平市公共施設マネジメント推進計画(素案)について

**資料1の概要を説明した。**

**F委員：**床面積縮減を変わらず目標として掲げているが、この5年間で達成できなかったという事実をもって見直すべきだと思う。

第5章の財政見通しの部分で、「過去5年間の投資的経費の平均額では延べ床面積を20%縮減しても更新等にかかる費用すべてを賄うことはできない」とあるが、市としてどう考えているのか。

**公共施設マネジメント課長：**将来的に延べ床面積を20%縮減していくことで、イニシャルコストについても、ランニングコストについても最終的に20%縮減可能と試算している。公共施設マネジメントの取組だけでなく、市の財政構造の内訳を変えていくことや、市全体の行財政の見直しである第1期小平市経営方針プログラム等を併せて、施設の更新費用について捻出していくことを考えている。

**F委員：**必ずしも公共施設整備に係るものだけではないお金のコントロールが必要であるという認識を確認できたので納得できた。

**A委員：**35ページに「管理運営費用を縮減し、その分を投資的経費に充当することも必要」とあるが、更新費用の試算もできているのであれば、あいまいな表現は改めるべきだと思う。

**公共施設マネジメント課長：**検討させていただく。

**C委員：**コスト縮減の試算については、どのような方法で行ったのか。

学校については、今後求められる建物のスペックが上がっている状況もあるので、そのことも検討しているという旨を記載すべき。

**公共施設マネジメント課長：**イニシャルコストについては、延べ床面積に施設分類ごとの更新単価を掛け合わせて算出している。ランニングコストについては、各施設の人件費や光熱水費等の実績を基に縮減時期や量を勘案し、試算している。

建物に求められるスペックが上がってきているという状況は認識しているが、それがコストとしてどれくらいの影響があるかは見通しが立たないため、要素として加味できていない。現時点で個別の施設にどのような設備を入れるかということも決まっていないので、そういった視点に留意する必要があるといった記載をすることを検討していきたい。

**B委員：**学校の統合後の跡地についての記述がないようだが、検討しているのか。

**公共施設マネジメント課長：**跡地の方向性については、第3章の個別施設の更新等における基本的な検討手順の中で、基本計画の策定時に検討することとしている。また、第5章の財政見直し

の中でも跡地活用について触れている。

**B委員**：個別施設の基本計画を策定する際に検討するのでは遅いのではないか。全体性が保てないのではないか。

**公共施設マネジメント課長**：跡地のニーズはその時代によって変わるものだと捉えているため、現時点で全体の方向性を示すことは難しいと考えている。

**A委員**：売却するにしても、小平市のまちづくりに役立つような機能や役割を持った法人等が取得して活用してもらうように誘導していくような考え方がファシリティマネジメントの分野で各自自治体において関心を持っているところであるので、小平市としてもそういった視点で考えていくべきだと思う。この機会に各委員から処分方法や譲渡先等について意見があればもらいたい。

**F委員**：個別の敷地についてよりも、まずは小平市全体のまちづくりとして考えなくてはいけないというのが基本だと思う。公共サービスをどうしていくかということとあわせて財政の健全化に向かうべきであり、サービスに対しての未来のビジョンが見えてこないことが問題だと思う。小平市の公共施設マネジメントの考え方に則ったまちづくりのあり方というものを提示しなくてはならないと思う。

**C委員**：習志野市では提案型売却を行ったことがある。市からの要望を踏まえてどのようなものを作るかということコンペ形式で提案してもらい、最も適した業者に売却するという形式であった。また、統廃合に伴う跡地や小規模のものについては市民ワークショップを開催して検討した。そこには市内の大学生も参加し、条件として、そこで使う費用は自分で賄うという仕組みと一緒に提案しなくてはならないということが特徴であった。

**A委員**：現状の記述内容だけでは不足していると思うので、跡地処分に関しての基本的なスタンスをもっと盛り込んでいった方がいいと思う。

**公共施設マネジメント課長**：他自治体の取組事例も注視していきたい。跡地活用の考え方については、小平市公共施設等総合管理計画にも記載がある。

**A委員**：具体的な手法については、市において調査・研究を進めていただきたい。

**A委員**：18ページの保育園の部分において、4園を縮減する目標としているが、図表2-1-7からはそのことが読み取れない。

**公共施設マネジメント課長**：担当部署と調整する。

**A委員**：19ページの都営住宅との合築施設の部分について、更新等を行うかどうかの方向性をはっきりと示せないか。

**公共施設マネジメント課長**：都営住宅自体を更新するのかどうかは都の判断による。また、都営住宅内から他へ機能移転を行うにしても都との調整が必要となるため、このような表現をしている。

**A委員**：16、17ページの学校の統合ブロック案で、学校候補地を「要検討」としている所については、いつ検討結果を示すことができるのか。

**公共施設マネジメント課長**：現時点では想定ができていないが、統合想定時期の7、8年前位までには決める必要があると考えている。

**A委員**：17ページの備考に、「将来的に校地面積が縮小する可能性が高い」と記載している意図はあるのか。

**教育総務課長補佐**：客観的な事実として記載しているものである。学校の統合においては校地面積も重要な要素の一つとなると考えている。

**C委員**：統合をいつまでに決めるのかということに記載した方がいいと思う。

**公共施設マネジメント課長**：検討させていただく。

**A委員**：周辺住民の予測可能性は重要だと思う。不意打ち的に結論を出すということにならないように注意してもらいたい。

**公共施設マネジメント課長**：市でも重要な点と捉えており、学校への事前説明等を行い始めている。

**A委員**：13 ページの図表 2-1-3 の推計児童数については、今回の計画期間である 2031 年度まで変更しないということになるのか。

**公共施設マネジメント課長**：この計画は 5 年毎にローリング方式で見直すこととしているため、その時点の最新の推計等を基に見直す予定である。

**A委員**：この素案についての今後の進め方はどのようになるか。

**公共施設マネジメント課長**：12 月 23 日から 1 月 24 日までパブリックコメントを実施し、1 月には市民説明会を行う予定である。そして今年度中に策定予定である。

**C委員**：この委員会で出た意見に対してどのように対応したのかがわかるようにしてもらいたい。

**公共施設マネジメント課長**：委員の意見に対しては基本的に会議要旨としてまとめ、共有させていただいた上で、次回の委員会で口頭で説明させていただいている。

**C委員**：パブリックコメントの実施にあたり、広報の方法についての見直しは行ったのか。

**公共施設マネジメント課長**：これまでの市報やホームページでの周知に加え、LINE や twitter の利用を検討する。

### 3 小平第十一小学校等複合施設の整備に関する基本計画(素案)について

資料2の概要を説明した。

**A委員**：プールの設置の有無は基本計画の策定において大きな要素となると考えるが、検討状況は。

**教育総務課長補佐**：市の事務事業の見直しの中で、市営プールのあり方の検討を行っている。その検討状況を踏まえながら決定していくこととなる。

**C委員**：どの部署が検討し、いつまでに決める予定か。

**教育総務課長補佐**：学校ではなく、市営プールの検討のため、市長部局で行っている。それに併せて学校の水泳授業も絡められないかということで一緒に検討している。時期については未定である。

**C委員**：教室数については児童数のピーク時に合わせて計画しているとのことだが、今後児童数が減少した際に余剰教室が発生した場合はどうするのか。

**教育総務課長補佐**：児童数の動向と地域の利用のニーズを踏まえながら、地域開放としての活用等、フレキシブルに対応できるように考えたい。

**C委員**：国の方では、教室だけではなく学校中が学習環境として考えられるべきという議論を行っているが、その考え方は取り入れられているのか。

**教育総務課長補佐**：そのような議論があることは把握しているが、スペースの制約等もあるので、校地拡張の可能性や、現場の意見等を踏まえながら今後検討していく。

**D委員**：花小金井北公民館と花小金井北地域センターが複合化されるということだが、現在の稼働率から新施設の面積で賄いきれるのか。

今回のコロナ禍で、学校と公民館・地域センターでの利用の可否の判断が異なっていたと思うが、（仮称）地区交流センターとなった場合にどうなる予定か。

14ページと29ページの図で相互利用の範囲が異なる部分があるが、いかがか。

**公共施設マネジメント課長**：それぞれの施設の平均稼働率は30%前後であり、理論上は収まるが、部屋の大きさや時間帯によっては稼働率が非常に高くなるため、そこをどう調整していくかが今後の検討課題であると認識している。可動式間仕切りを設置する等、ある程度柔軟に利用できるような造りにしたいと考えている。

施設ごとの利用の可否については素案には記載していないが、課題として受け止めさせていただく。基本的に学校と（仮称）地区交流センターの動線は交わらないように想定している。

図については成案で修正させていただく。

**F委員**：多目的ホールについて、遮音や振動に配慮するとあるが、そうすると厚い壁にする必要もあり、交流を促す空間となるのか。

**公共施設マネジメント課担当係長**：児童と地域住民と一緒にダンスをすること等も想定しているので、その点に対応できるようにしている。

**公共施設マネジメント課長**：交流を第一に目指す一方で、騒音や振動に一定程度の配慮も必要のため、このような表現にしている。堅牢な造りで交流を妨げるようなイメージをしているものではないため、記載について検討したい。

**B委員**：みどりの基本計画の中で、公共施設や学校の緑化がうたわれていると思うが、その内容は入っているのか。

**公共施設マネジメント課担当係長**：自然とのふれあい施設を特徴的な施設として記載している。法令や小平市みどりの基本計画等に基づいて計画することとなる。

**E委員**：学校の敷地内にプールを作らないとなると、他の場所のプールへ水泳の授業で行くということになるのか。

**教育総務課長補佐**：そうである。近くにあれば徒歩で、遠くであればバス移動等になる。こういった取組は全国的に広がっており、他自治体の事例を参考にしながら検討していきたい。

**G委員**：教科担任制への対応は想定しているのか。ビオトープを作る等、緑がたくさんある小平市の魅力を取り入れたらいいと思う。休み時間の混雑を避けるために校庭を二つに分けることも考えたらいいいと思う。

#### 4 小平市公共施設等総合管理計画(素案)について

資料3の概要を説明した。

**F委員**：この計画に書かれていることから、わくわくを感じられるのかという視点が欠如していると思う。市民サービスの目線に立たないといけないし、数値の話が前面に出てきてしまっている所から脱却してもらいたい。

## 5 その他

**公共施設マネジメント課長**：今年度の開催は本日が最後となる。次回は令和4年6月に開催予定。

## 6 閉会